

御用新聞ニューヨーク・タイムズ：

ウクライナの米軍について聞かされていないことがある

【訳者注】この激しい、義憤に駆られた、しかし実証的な論文は、「勝利でなく混乱——これが帝国のゲームの目的である」（5/3）や「西側メディア全体が一つの連携プレイ軍団」（4/29）などと併せ読まれるのが望ましい。共通の問題意識をもつ別々の論者を通じて、現時点の世界の問題のありかと、その緊急性、その深刻さがよりはっきり見えてくるはずである。

By Patrick L. Smith

May 10, 2015

アメリカ軍が現在ウクライナで公然と活動している。この“一流紙”の“報道”は、例によって、読者を当惑させるだけだ。

あるペンタゴン報道がキエフでこれを発表した、4月半ばの時点で、そしてアメリカのメディアではほとんど報道されなかったことだが、アメリカ軍は現在、ウクライナで公然と活動している。

この見出しは、私が長いこと書くのを怖れていたが、最初から、きっとそうすると予想していたことである。これはちょっと考えてほしいというものではない。ずっと考えてほしいものだ。そうしなければならないからである。我々はこの春、深刻な状況に置かれている。

最初私は、新聞関係者が“両義的リード”と呼ぶ文章を書くべきかと思った——「ウクライナの米軍、米メディアはそれについて多くを語らず、2つの事実」といった。

それは間違いだった。現在、1つの事実がある——アメリカ人はロシアとの戦争のごく瀬戸際に、目隠しをされたまま立たされている。

それが起こると予言することはできない。そしてもちろん、正しく考える人々は、そんなことにならないことを希望している。3月にオバマ大統領は、そんな考えを、あたかも馬鹿げたことのように退けた。「彼らは、我々との軍事的対決は考えていない」とオバマは、ロシ

アについて真実を言った。しかし、彼は続けて「我々は戦争を必要としない」と疑わしい言い方をした。

どうするのに戦争が必要でないというのですか、大統領？　それが我々の聞きたいところだ。もう一つこう聞きたい。ワシントンは、続けてきた弱小国での傀儡政権を操るやり方を、正確にどうなれば、やめるつもりか？——今度の場合、ロシアの歴史的に敏感な西洋との国境において同じことをするのに、軽率も計算違いも全くないかのように言っているわけだが？

アメリカの無邪気のポーズは、最善の場合でも見苦しく退屈なものだが、それが今、再び危険になりつつある。

現在の憂慮の種は、この 2 つ目の質問に答えてもらっていないことである。計画は明らかだ。NATO 軍を、東欧の境目ギリギリにまで進めて、究極的にはモスクワを不安定化させることであろう。現在キエフに配置されている手下どもは、ウクライナの資源や労働を搾取するのに熱心な企業のために、あらゆる準備をしている。

そしてワシントンの政策グループは、それを手に入れるためには、いつでも戦争に入れる構えである。4 月半ばに、第 173 空挺部隊がウクライナに到着し始めた時点で、我々はそれについて通告を受けたようなものである。

過去において、私の記憶が正しければ、アメリカのウクライナにおける軍事プレゼンスが春までには完了するという、いくつかの曖昧な言及があった。これは昨秋のことだったかもしれない。その頃にはまた、いくつかの部隊と多数の情報局員が未承認だが、すでにアドバイザーとして来ているという、未確認のうわさがあった。

その後 3 月半ばに、ポロシェンコ大統領が、ウクライナの土地での外国部隊の活動を承認する法案を導入した。あるロシアのインサイダーが、詳細な事情を明らかにした。それは自由な立場のモスクワのウェブサイトで、適切な情報を収集して発表する、不気味な能力をもった Charles Bausman というアメリカ人が創設し運営しているものである——

「草案によれば、ウクライナは、3 つのウクライナとアメリカ合同の指揮所演習 (command post exercise) を計画している。すなわち Fearless Guardian 2015、Sea Breeze 2015 および Saber Guardian/Rapid Trident 2015 だ」と、このサイトは発表した。「そして今年はさらに、2 つのウクライナとポーランドの合同演習 Secure Skies 2015、Law and Order 2015 が計画されている。」

これはかなりの量の演習計画だといってよい。ポロシェンコの法案は、これらの演習の一つひとつに1,000人以上の米部隊と、同数のウクライナの“国防軍”が参加することを許している。この不気味な連中については更に後で述べる。

ひとつ深呼吸して、1,000人のアメリカ人——とオバマはきっと曖昧に言うだろう——が、ナチやナチ同調者の準軍隊から引き抜かれた者たちと、合同の軍事演習を行っていると考えていただきたい。…申し訳ないが、私はこのパラグラフに、これ以上付け加えることはできない。口を閉じる。

キエフの、ペンタゴンのスポークスマンが、第137空挺部隊がほかならぬ“国防軍”を訓練するために到着し始めていることを——アメリカの記者が誰もいないと思われる部屋に向かって——報告したのは、ポロシェンコの法案が議会上程されるちょうど一か月前のことだった。この訓練に「実戦活動コース」が含まれていることは、作戦将校 **Jose Mendez** 少佐が、当時隠さず話した通りである。

このスポークスマンのあげた数は“約300”だった。そして私は、こういう人たちが部隊の展開を説明するときを使う“約”が気に入らない。かならずそういう言い方で、いつも始まっている。ベトナムの米軍は、1950年9月に到着した“一握りの”アドバイザーから始まった（MAAG、「軍事援助アドバイザー団」を覚えておられるだろうか？）。

私の内部にはまだ、ロシアとの戦争をまさかと思っている部分がある。しかしこの「まさか」は、ぞっとする火遊びの可能性をもっているにもかかわらず、この時点では、重力を否定するのに匹敵すると言ってもよい。

私は、アメリカのメディアが、この問題を正しく報道しないという恥ずべき無責任さに腹を立てている。この出来事を報道しないでおくことは、間違いなく、省略によるウソである。ニュースの採否判断として、この事実がストーリーにならないと主張するほど、ひどい判断はありえない。

昨年12月のある講演で、現在ロンドンに住んでいるオーストラリアの著名なジャーナリスト **John Pilger**（ピルジャー）は、ウクライナ危機は、彼の全生涯で見たことのない、最も極端なニュース管制になっていると言った。私も同じ考えで、今、それが意図によるものか無能力によるものかは、これ以上証明は要らない。（それを今考えてみると、多くの場合にその両方である。）

たしかにタイムズは、米軍について二度触れている。一度は報告のあった日で、ワシントン発とされた内側のページのごく短い記事だった。この種のインチキには決まった言葉があって、すべて米側は「控えめな」ことになっている。

二度目は、国務省記者 Michael Gordon による 4 月 23 日のもので、見出しは「プーチンがウクライナ近くで戦力を増強、アメリカいわく」とあった。ここに示しておく。

<http://www.nytimes.com/2015/04/23/world/europe/us-says-putin-adding-russian-forces-near-ukraine-crimea.html>

話の筋は傑作である。プーチン——もちろん“ロシア政府”や“モスクワ”ではない——は再び部隊を大増強して侵略的に振舞っている——どれくらいとか場所や方法の詳しいことは説明されていない——ウクライナとの国境ということ——つまり彼の側の国境だ。——これがストーリーである。侵略という言葉は最近ではそんなふうに使われる。

6 番目のパラグラフにはこうある——「先週、ロシアは、ウクライナ西部で 300 名のアメリカ部隊が行っているウクライナ国防軍訓練という、**控えめな**計画を、“状況を不安定化するもの”などと非難した。」

怒った言い方をすれば、「ばかやろう、アメリカ軍がウクライナの土地で活動することの、何が控えめだ！ **それが不安定化であるのは当たり前ではないか！**」これは明らかな挑発であり、ワシントンの政策グループが見落とししたはずのない重要な点である。

この時点で、私は、プーチンがこの危機に模範的な抑制を示したという主張（私のものでもある）に、逆らうことのできる人があるとは思えない。役割と方向を逆にして、ワシントンこそ問題の国境線に、どのくらいの規模かわからないが、対空防衛システムや部隊だけでない、沢山のものを持っているであろう。

タイムズのウクライナの扱いは、少しついでに言うならば、I. F. Stone がかつてワシントン・ポストについて言ったことを、私に思い出させる。彼はこう言った——この新聞を讀んでいて面白いのは、第一面のストーリーが、どこにあるのかが分からないことだ。

タイムズの場合には、それがそもそもあるかどうか、分からない。

読者は、4 月半ばにキエフで起こったばかりの、大量の政治的暗殺について少しは読まれているだろうか？ ご心配無用。誰も読んだ人はいない——アメリカのメディアでは。タイムズには一言もなかった。

私のソースから聞いている数は、確かめることはできないのだが、これまでのところ 12 名——12 から 13 名——ということだ。記録では、昨年追放されたヴィクトル・ヤヌコヴィッチ大統領の政治的盟友が 10 人確認できる。彼らは、ウクライナのロシアとの歴史的な関係を完全に切ることに反対し、ソビエトがナチスを破った 70 周年記念を支持し——これは死に値する——新しい政権の腐敗と、暴力的な極右過激派への依存を批判する人々だった。

これらはすべて高度に目立つ政治家、議員、ジャーナリストだった。彼らは、利用の簡単な非アメリカン・メディアによれば、これら小さな過激派グループによって殺されたものである。私の読みでは、殺し屋たちは、1970 年代のアルゼンチンの準軍隊殺人部隊がビデラ大統領や大佐たちとの間に持っていたのと同じ、半公的な政府との繋がりを持っていたと思われる。

ポロシェンコ政府は、ロシアに罪を着せる工作をしているが、それは無視してよい。過激な右翼議員たちを疑うのが妥当である。著名な編集者だった Oles Buzyna が、数週前に自宅の外で致命的な弾丸を受けた後、Boris Filatov という国会議員が同僚たちに、「これでクズ人間がもう一人いなくなった」と話した。また Irina Farion という女性は、「死んだことで、このクズ人間が撒き散らした汚物が浄化されるだろう。このような者たちは歴史の下水溝行きだ」と言った。

こういう連中に支配される新しいキエフの議会は、やさしい場所であろう。ワシントンはさぞ誇りに思っているだろう——自分のいうことを聞く、もう一つの右翼的、反民主主義的、人権蹂躪的な政権を、支援してきた甲斐があったのだから。

そして我々のメディアは、もちろん沈黙しなければならない。それ以外にありえない。ガッツをもたない駄馬たち。私は怒りを抑えることができない。

(パトリック・スミスは、*[Time No Longer: Americans After the American Century](http://www.amazon.com/dp/0300176562/?tag=saloncom08-20)*の著者。<http://www.amazon.com/dp/0300176562/?tag=saloncom08-20> 彼は香港で、次に東京で 1985 - 1992 年の間、International Herald Tribune の事務所長を務めた。この期間に彼は *Letter from Tokyo* を「ニューヨーカー」に執筆した。それ以前にも 4 冊の本を書いており、ニューヨーク・タイムズ、ザ・ネイションズ、ワシントン・クォーターリー、その他の定期刊行物にしばしば寄稿している。Twitter: <https://twitter.com/thefloutist>)